



床下蓄熱型サーマースラブを用いた土間で暖房し、補助的に薪ストーブを。薪ストーブ周辺のレンガは自分たちで積んだ。珪藻土の壁も自分たちで塗装。この家への愛着もいっそう増す

冬は銀色に輝く雪原が目の前に広がり、夏には緑豊かな田園地帯となるならかな傾斜地。その一画には白樺林があり、以前、札幌で暮らしていたSさんご夫妻は長沼町の馬追まで名水を汲みにきては「こんなところで、子育てできたら」と思っていたそうです。そんな願いが届いたのか、縁あって土地を入手。設計は、若手ながら店舗設計なども手がけ実力とセンスをしっかりと兼ね備えたトロッコ一級建築士事務所に依頼し、同事務所を通じて大平洋建業と出会いました。

「暖かい家であること」をメインに話し合いがスタート。断熱性や気密性など、北国の快適な暮らしを意識してプランを練っていたところ、大平洋建業がこれまで何棟も手がけてきた北方型住宅の条件に合致。竣工後には「折角こんない家ができたのだから」と選考会に応募したところ、「第2回北方型住宅賞奨励賞」を受賞するに至りました。

勾配のある土地形状を素直に利用して、地階には奥さんが道産小麦と自身で育てた酵母で焼くパン工房を配置。その上にある1~2階が回遊性のある居住空間というレイアウト。玄関からフラットで土間につながり、リビングには大きな窓があります。光や風に揺れる木々、美しく変化する四季を身近に感じながら日々の営みを紡いでいきたいという希望が反映されています。また、道産のカラマツを多用し、その土地に根付いた素材でこれからも一緒に呼吸しながら、年月を積み重ねていくこともポイントに。ご夫妻の「丁寧な暮らしがしたいと考えました。流されず、ここで自然にやっつけていこうかな」という優しい笑顔に、おだやかな時を過ごされている様子がうかがえました。

右：引き戸になった玄関から土間へ。パン用の道産小麦が出番を待っている

左：リビングから2階へ。階段右手奥には、客室にもなる和室がある



第2回北方型住宅賞奨励賞を受賞した性能とデザイン

## 白樺林の向こうで、 パンを焼きながらの丁寧な暮らし

土間のあるリビング。カラマツ・フローリングの小上がりは、腰掛けるのにちょうどの高さで、下に収納を設けているので便利

### NEW BUILDING REPORT



長沼町・Sさん宅／夫婦30代、子ども1人

設計／トロッコ一級建築士事務所 TEL 090-6092-4947  
 施工／大平洋建業(株) TEL 011-584-3071  
 札幌市豊平区西岡4条14丁目2-13  
<http://www.t-kengyo.com/> E-mail: taiken@poplar.ocn.ne.jp



燻煙処理した下川産カラマツはメンテナンスも簡単。  
自然の素材なので周囲に溶け込んでいる。  
POTORI BAKERY <http://www.potori-bakery.com>



新雪にウサギの足跡を発見したり、野鳥がやってきたり。毎日が驚きと感動。ゆっくと家族の時間が流れる



キッチンは下のフロアにあるパン工房と、リビングの中間地点に。仕事をしながら、主婦業もこなしやすい動線



右:2階にある「みんなの机」は、家族それぞれが自由に使う場所。宿題をしたり、奥さんが布小物を作ったり、本を読んだり  
左:浴室は青森ヒバ。お湯は井戸から引っ張り上げている水(馬追の名水)を使用し、よりリラックスできる



● <家づくりWEBセンター> 登録企業 ● とじこみハガキ (11) をご利用ください。